

# ブロッコリー安定生産の取組

## ■ 三豊地区ブロッコリー部会 ■

(西讃農業改良普及センター 大矢啓三)

### ●対象の概要

J A香川県三豊地区ブロッコリー部会は、平成10年頃から栽培面積が年々増加傾向で、30年産の栽培面積は約345haであり、県下でも中心的な産地となっている。育苗から定植、出荷調整までの支援体制が整っているため、新規就農者でも取組みやすく、管内新規就農者の大半が経営品目として取り入れている。

販売面では、出荷の全量が共同選果で品質が揃い、氷詰めによる鮮度保持も良いことから市場での評価も高くなっている。

### ●課題を取り上げた理由

ブロッコリーの栽培面積は、年々増加傾向であるが、露地栽培であるため、出荷量は天候に左右され変動が激しくなっている。特に、ここ数年は秋期の集中的な降雨などにより計画的な作付ができずに、苗を廃棄するケースも散見されている。

また、定植できても畝立て時の土壤水分が高い場合や定植後の大雨により畝が冠水した場合には生育不良となり、病害の発生などから収量・品質の低下が見られている。

そのため、普及センターでは関係機関と連携しながら、ブロッコリーを安定的に生産するための支援を行うこととした。

表-1 栽培面積と出荷量 (ha、ケース)

	H27	H28	H29	H30
栽培面積	299.8	307.6	330.1	345.1
10a 出荷量	184.9	179.4	146.9	—

### ●普及活動の経過

#### 1 新規栽培者の技術向上支援

ブロッコリーは、初期投資が少なく新規栽培者が取組みやすいものの、反面栽培がうまくいかなければすぐ止めることもできる品目である。実際、栽培を始めて数年で止める生産者も少なくない

のが現状である。そのため、新規栽培者の技術向上を目的に、J Aで初めて苗を購入した人や新規就農相談でブロッコリーを栽培予定の人を対象に、栽培講習会を開催した。その後も、可能な限



りほ場での現地指導を行った。

#### 講習会の様子

#### 2 適期定植の推進

##### 1) 生分解性マルチを利用した早期畝立て栽培の実証

ほ場条件の良いときに畝立てをして、適期に定植できるようにするため、定植予定の1か月前に畝立てを行った。また、片付けの省力化のために、数種類の生分解性マルチを試験し、分解程度を調査した。

##### 2) 排水対策の実証

前年の早期畝立て栽培で、100mmを越える降水量が降った際に一部で畝が崩れて、生育不良となるところが見られた。そのため、排水対策と早期畝立て栽培を組み合わせた実証を行った。内容は、定植1か月前の8月20日に、排水対策として①額縁明渠+パラソイラー、②額縁明渠+サブソイラー、③額縁明渠のみの3区を設け、9月16日に畝立てマルチを行い、同28日にブロッコリーを作付けた。

### ●普及活動の成果

#### 1 早期畝立て栽培の普及

定植1か月前の畝立てであれば、肥料も慣行施用量で栽培は可能であり、マルチ栽培とすることで慣行栽培に比べてL級以上の割合が高く

なった。

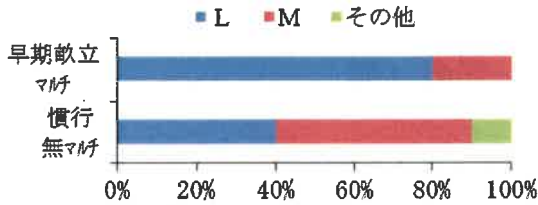


図-1 収穫物の階級別割合 (H29年12月～H30年1月)

マルチ栽培では、JAの移植機による支援が受けられないが、講習会や普及センターなどにより生分解性マルチを利用した早期畝立て栽培を推進した結果、生分解性マルチの利用は30年度で約52haと増加した。また、若手生産者中心にマルチ栽培に対応した移植機が30年度で7台導入された。

表-2 平成30年度の普及状況

生分解性マルチ栽培面積	52ha
全体に占める比率	15.1%
移植機の導入台数	7台

※マルチ面積はマルチ購入数から換算

## 2 排水対策の効果確認

8月20日にはほ場の排水対策を行い、畝立てまでの土壌水分(pF値)を調査した(図2)。9月7～10日の4日間で150mmを越える降水量があったが、6日後の9月16日には耕うん、畝立てすることができた。生産者の話では、「降雨後のほ場の乾き方が全体的に昨年よりかなり早かった」という意見があった。

その後の、ブロッコリーの生育、収量調査では、差は見られなかった。

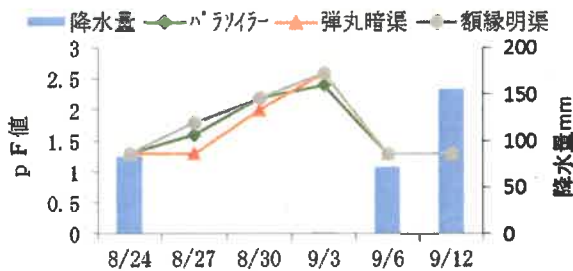


図-2 土壌水分の推移(降水量は調査期間の合計、財田アメダスデータ)

	重量 g	長径 cm	高さ cm	高さ /長径	L以上率 %	秀品率 %
パラソイラー	604	14.7	8.7	0.59	100	100
弾丸暗渠	549	14.2	8.5	0.59	100	100
額縁明渠	593	14.8	9.0	0.61	100	100

1区10株

L率は花蕾長径が13cm以上のものの割合

## 3 排水対策マニュアルの作成

これまでの取組み結果から、ブロッコリーの排水対策マニュアルを作成したので、講習会などで生産者に配布し、推進することで安定生産に繋がっていく。

### ブロッコリーの排水対策

四国農業研究普及センター

ブロッコリー栽培では、ここ数年秋期の集中的な降雨等により計画的な作付ができなかったり、排水不良による根腐の発生や収量・品質が低下し、生産性が不安定になっています。そのための、条件の良いときに早めの排水対策を、合わせては適切な排水対策を行いましょう。

水稲後まき時、ブルドーザーで込み、穴のきく程度に表層を耕翻し、排水溝への排水性を高める

よく耕すや、深い場合は、ブルドーザー、サブタイラー等で土を破砕し、排水溝への排水性を高める

注意事項  
・排水溝の深さは、排水溝の底が下層の硬層に到達しないよう、10cm程度を確保する。  
・排水溝の幅は、10cm程度を確保する。  
・排水溝の底は、排水溝の底が下層の硬層に到達しないよう、10cm程度を確保する。

は雨が大きい場合は、中溝を設置し、溝を排水口へしっかりと開いておく

・排水溝の深さは、排水溝の底が下層の硬層に到達しないよう、10cm程度を確保する。  
・排水溝の幅は、10cm程度を確保する。

定植前に、排水溝を確保する

3月下旬に早めには排水対策できるため排水対策を高める

適期に定植することで、品質の良いブロッコリー生産!

### 排水対策マニュアル

## ●今後の普及活動の課題

### 1 若い担い手の組織づくり

新規栽培者の中には若い生産者も多く、講習会や現地指導でもブロッコリー栽培に不安を抱えている生産者も見られる。現状では、JAの講習会などにも参加しているが、生産者間の繋がりは個人差がある。地域に馴染んでいる生産者は地元の先輩から助言を得ているが、馴染みの少ない生産者は孤立している場合がある。そのため、若い生産者同志のグループを作り、お互いに意見交換し切磋琢磨することで、技術レベルを向上させる取組を進める。

### 2 マルチ栽培での施肥方法の検討

マルチ栽培では、追肥を行う際にマルチに穴を開け、切れ込みを入れる必要があり、手間がかかっている。そのため、マルチ上から簡単に施肥できる方法や施肥の回数を少なくする施肥体系について検討する。